主産県の生産出荷見通しと夏の気象対策

資料2－6

全国農業協同組合連合会　園芸農産部

気象見通し 長期予報・関東	（７月※１ヶ月予報）　上中旬を中心に平年よりも気温高め　降水量は平年よりやや多め、日照量は平年よりやや少なめ （８月※３ヶ月予報）　気温は平年並み、降水量は平年よりやや多め

主産地の品目毎の出荷見通し（聞き取り）			夏の気象に対する技術対策　（各県行政、各県本部等の前年の対応例）	
キャベツ （全農群馬）	現状	6月上旬までは生育遅れもみられたが、 回復基調にあり、順調な出荷となっている。	①低温	生育遅れがおきやすいため、追肥を行い、生育を促す。
			②日照不足	同上
	見通し	平年並みの気温と日照が確保されれば、 順調な出荷が続いていく見込み 多雨が続けばこの限りではない。	③降雨 （多雨）	土壌水分過多（多湿）は根腐れや病害がおこりやすくなるので注意する。 排水を良くするために、溝、排水路の整備を事前に行う。 嬬恋村の場合は畑を斜面に沿って造成する。
			④旱ばつ	
			⑤降雹	成長して、球状（結球）になる前の段階であると、傷ついたところから病害がおこりやすくなるため、これを防ぐための防除を行う。
レタス （全農長野）	現状	6月上旬までは生育遅れもみられたが、 回復して順調な出荷となっている。		*（出荷前）対病性の強い品種の導入を積極的に進める。
			①低温	病害や虫害が発生しやすくなるため、適切に防除を行う。
			②日照不足	同上
	見通し	平年並みの気温と日照が確保されていれば、 順調な出荷が続いていく見込み 多雨、日照不足が続けばこの限りではない。	③降雨 （多雨）	土壌水分過多（多湿）は根腐れや病害がおこりやすくなるので注意する。 排水を良くするために、溝、排水路の整備を事前に行う。 マルチ（被覆資材）を張る際、過剰に滞水しないよう、畑の傾斜に留意する。
			④旱ばつ	縁腐病などが発症することがあるため、肥料の散布などを行う。
			⑤降雹	成長して、球状（結球）になる前の段階であると、傷ついたところから病害がおこりやすくなるため、これを防ぐための防除を行う。
はくさい （全農長野）	現状	6月上旬までは生育遅れもみられたが、 回復して順調な出荷となっている。		*（出荷前）対病性の強い品種の導入を積極的に進める。
			①低温	病害や虫害が発生しやすくなるため、適切に防除を行う。
			②日照不足	同上
	見通し	平年並みの気温と日照が確保されていれば、 順調な出荷が続いていく見込み 多雨、日照不足が続けばこの限りではない。	③降雨 （多雨）	土壌水分過多（多湿）は根腐れや病害がおこりやすくなるので注意する。 排水を良くするために、溝、排水路の整備を事前に行う。
			④旱ばつ	縁腐病などが発症することがあるため、肥料の散布などを行う。
			⑤降雹	成長して、球状（結球）になる前の段階であると、傷ついたところから病害がおこりやすくなるため、これを防ぐための防除を行う。

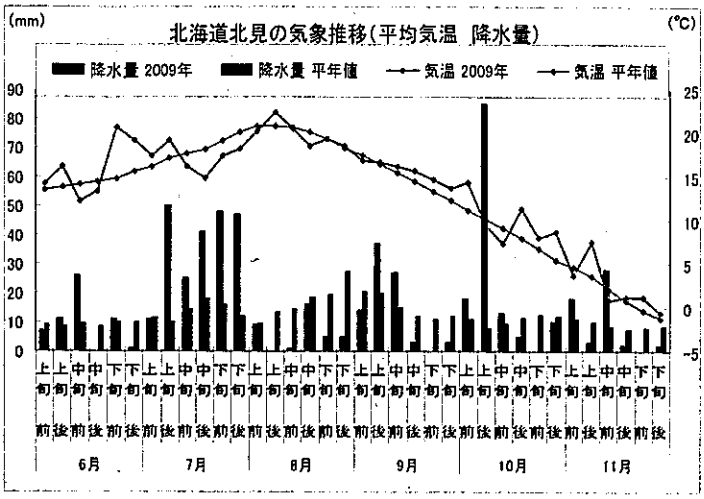
気象見通し 長期予報・北海道	（７月※１ヶ月予報）　上中旬を中心に平年よりも気温高め　降水量は平年並み、日照量は平年並み （８月※３ヶ月予報）　平年に比べやや気温は低く、降水量はやや多い

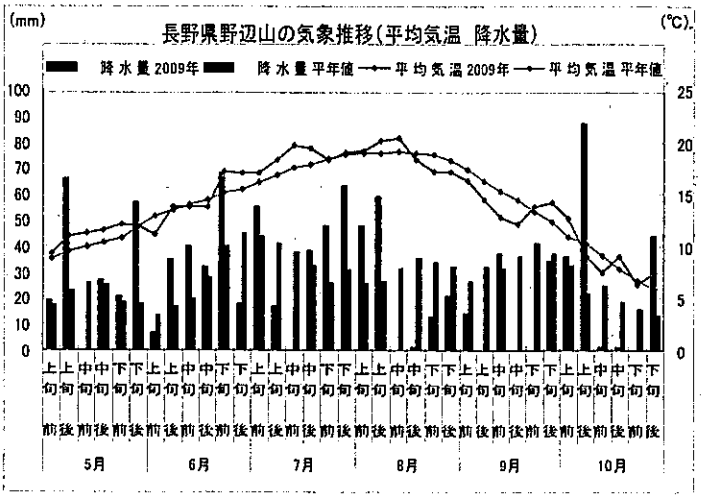
だいこん (ホクレン)	現状	春先の天候不順で生育は遅れていたが、 回復基調にある。 出荷本格化は8月から。	①低温	春（４～５月）の低温で、一部抽台の発生が見られるので、混入しないよう選別をしっかり行う。
			②日照不足	
	見通し	7月に極端な天候不順がなければ、 8月～9月の最盛期にむけ、出荷量が 増加していく。	③降雨 （多雨）	土壌水分過多により、病害の発生確率が高くなるほか、肥料が流れ出てしまうことがあるため、防除を行う。 排水処理をおこない、病害の発生を防ぐ。 多肥圃場では、高温時「軟腐病」が発生しやすくなるので防除を徹底する。
			④高温 （早ばつ）	高畝、マルチ栽培で地温の上昇により、赤心症等生理障害が発生しやすくなるので、収穫前調査を行い、混入を防止する。
			⑤降雹	抽根部や葉が大きく損傷を受けた場合は除去する。
にんじん (ホクレン)	現状	春先の天候不順で生育は遅れていたが、 回復基調にある。 出荷本格化は8月から。	①低温	軟弱に成長しやすいため、病虫害の発生に警戒し、適切な防除をはかる。 抽苔（中心のコア部が木質化して硬くなり商品価値がなくなる。）の発生が増加するので、収穫前抜き取り除去とともに、選別時確認して除去する。
			②日照不足	
	見通し	7月に極端な天候不順がなければ 例年通り、出荷が本格化していく。	③降雨 （多雨）	土壌水分過多により、乾腐病等根部病害の発生確率が高まるほか、肥料が流れ出て「黒葉枯病」が発生しやすくなるので、防除を行う。 土壌が流れ出たときは、青首の発生が多くなるので、培土する。
			④早ばつ	早ばつ後の降雨で裂根が多発するので、収穫時期の適切な検討を行う。
			⑤降雹	葉や抽根部が大きく損傷を受けた場合は除去する。 葉の損傷により病害が発生しやすくなるので防除を行う。
たまねぎ (ホクレン)	現状	春先の天候不順で生育は遅れていたが、 出荷本格化は9月から。	①低温	病害が発生しやすくなるため留意し適正な防除を行う。
			②日照不足	
	見通し	前年は7月の天候不順が不作をもたらした。 本年の天候推移を注視している。	③降雨 （多雨）	土壌水分過多により、「白斑葉枯病」等、病害の発生確率が高くなるため防除を行う。保水性が小さく、肥料の流亡しやすい畑は、追肥を行う。
			④早ばつ	ネギアザミウマ（スリップス）の発生が多くなるので防除する。
			⑤降雹	葉や球が大きく損傷を受けた場合は除去する。 少被害の場合は病害、虫害が発生しやすくなるので防除を行う。

総括	○夏の露地野菜は、気象による変化を大きくうけ、出荷量が不安定になりやすい。 ○とくに近年「ゲリラ豪雨」や「冷夏（多雨、低温、低日照）」など夏の気象予測が困難で、生育、出荷に大きな影響を与えている。 ○産地サイドとしては、こうしたなかで気象変動に対し、できうる限りの対策をおこない、安定供給を実現できるよう努めている。 ○同時に安全・安心な農作物の生産のために農薬管理等にも留意し、使用履歴の記載とチェックを厳しく行っている。

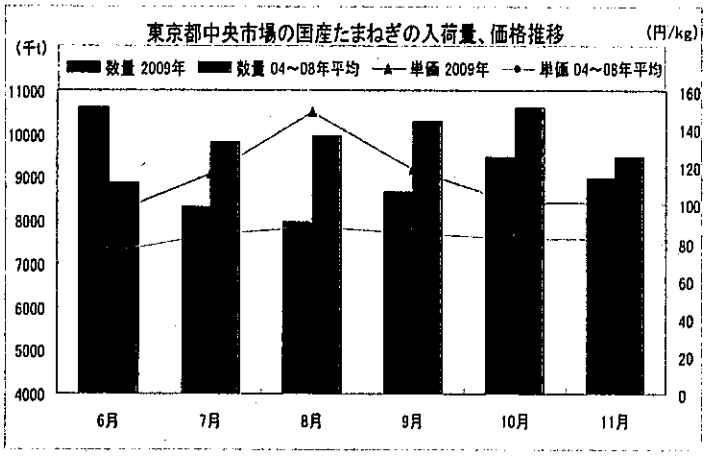
（参考）　2009年の夏の気象推移と市場入荷動向

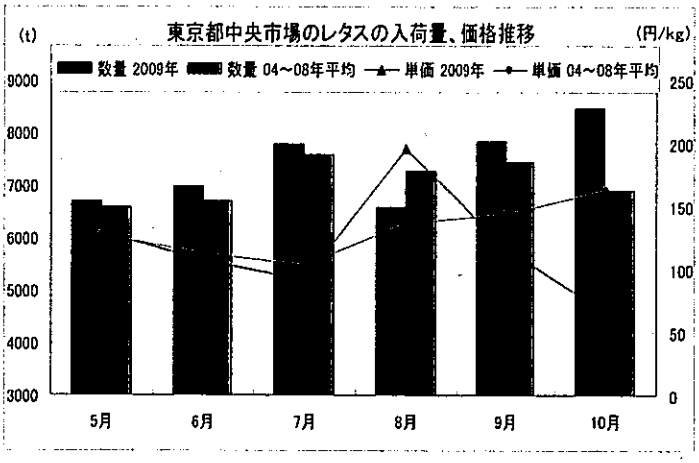
○　09年夏の北海道北見（たまねぎ主産地）、長野野辺山（レタス主産地）の気象推移





○　東京都中央卸売市場のたまねぎ、レタスの入荷量、価格推移





○　極端な夏場の降雨や気温により、露地野菜の出荷と市況価格な影響を受ける。

○　（たまねぎ）主産地の北見では７月中、多雨、低温傾向が続いた。
このため、８月以降出荷の、大部分の作付が影響をうけ、近年にない不作となった。
収穫量（入荷量）は平年を下回り、価格も高い状態が長期にわたって続いた。

○　（レタス）７月下旬から８月にかけて極端な多雨となった影響をうけ、出荷量が急速に減少し、価格が上昇した。
その後再び、旱魃傾向で生育が遅れていたものが回復し、入荷が増えたことで、再び急速に価格を下げた。